

# ザンバニシヤ通信

## 北大と共催で女子中高生むけイベント開催しました：

北海道大学人材育成本部女性研究者支援室、札幌市男女共同参画センターとの共催で、「平成29年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム」「『理科が好き!』のその先は?～みんなで考える理系のお仕事」が開催されました(11月11日札幌エルプラザ)。当日は、女子中高生とその保護者計34名の参加がありました。室蘭工業大学卒業生のお二人(札幌市役所勤務の一岡美佳子氏とNTTファシリティーズ北海道勤務の槇愛美氏)が、理系出身社会人による講演「理系進学と仕事の関係」として、中高時代の過ごし方や大学受験や就職の時に考えた事などについて講演しました。講演後のディスカッションでは、大学での研究や過ごし方、アルバイト、就職してからの状況などたくさんの質問がでていました。女子の理系進学はバイオ系や医療系の増加が顕著ですが、建築系、情報、電気、機械系などで活躍している女性の情報発信の機会が増えれば進路選択もより多様になっていくことでしょう。



## ～札幌市役所水元会女子会の紹介～

平成8年情報工学科卒 一岡 美佳子



札幌市役所には、市役所職員が所属している室蘭工大同窓会の中で女子会があります。現在、女子会の会員は11名土木職、建築職、電気職、機械職の4職種の女性がいます。活動は年に2回の飲み会で情報交換を行っています。

女子会で顔を知っている、話をした事があるというのは仕事に必要な時に質問や相談をしやすいという事で有利になります。また、20代の方が多いため、今現在、産休育休に入っている方が2名、過去に産休育休に入っていた方も1名いるため、子育ての話も飲み会の中でできるといふ事もあります。

他の男性職員には、「女子会って男性同僚や上司の悪口で盛り上がってるでしょ」と聞かれますが、そのような事を話している暇がないくらい趣味の話、日常の話、今後の職場、資格取得の話等々話のネタに尽きません。

今後、さらに女性職員が増えると思います。さらに活動を活発に続けられるように頑張ります。

## 開催しました：

### 教職員のためのトップセミナー2017

「理系女性研究者の活躍推進に向けた取組ノウハウ ～東京農工大学の場合～」

11月28日(火) 15:00-16:30 本部棟大会議室

講師：宮浦 千里 氏 (国立大学法人 東京農工大 副学長)



今回は東京農工大学の宮浦千里先生にご講演いただきました。ジェンダー平等を達成するために「アンコンシャス・バイアスの認識」の重要性の解説がありました。そのほか、これまでの農工大の男女共同参画の取り組み紹介と、平成28年度から農工大が代表機関として共同実施機関とともに進めている文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)「女性研究者の活躍推進を実現する“関東プラットフォーム”の創生と全国展開」のご紹介がありました。これを機に室蘭工業大学はネットワーク機関として参画することになりました。参加者は16名でした。

## 開催しました：

### キャリア形成のためのランチタイムセミナー第9回

「継続は力なり」

10月17日(火) 12:10-12:45 A317室

講師：森 美和子 氏 (国立大学法人 北海道大学 名誉教授)

今回の講師は、北海道大学名誉教授の森美和子先生です。学部卒業後に企業に就職し、大学院に入りなおして大学教員として努力を重ねた経験談は、参加者を勇気づけていました。特に、1991年に猿橋賞を受賞した前後のお話は、現在のアカデミック社会で当時より改善された面と、依然として残っている課題について考えさせられました。参加者は15名でした。



## 森先生の講演内容を今回と次回のニュースレター2回に分けて掲載します。

「継続は力なり」という言葉は、若いときから好きだった言葉で、自分の生き方を振り返って考えたときに改めてとても大事な事だったなあという気がしましたので、本日の講演タイトルにしました。

女の人が仕事を続けて行くときにどんな問題があるかっていうと、まずどんな教育を受けたかっていう事、就職、結婚する

かしないか、した場合にはその場所で仕事出来るかどうかという問題、育児の事、介護の事。それからこれが本当は最も大きい問題なんですけれども、ポジションの問題ですね。上へあがって行くときのポジションの問題。こういう問題があったなあというふうに思っております。

裏面へつづく

私は北大の理類に入学しまして、卒業後は専門の有機化学をやりたいってことで仕事を探したんですけども、女性の就職先なんてそのときは全くありませんでした。4年生の2月ぐらいになってから、「男の人を探してるんだけど、男がいなかったら女の人でも優秀だったら取りたい」という製薬会社の話があり就職しました。ところが学部卒業で仕事をするっていうと、もう行った途端に何にも出来ないっていう事がよくわかりました。誰かに何かを言ってもらわなきゃ仕事出来ないのに、合成をやる人がいなかったんですね。それで東大の応用微生物研究所にひと月に1回か2回行くようになって、そこの先生から「あなたが本当に仕事をしたかったら、少なくとも大学院、マスターコースは出なきゃ無理だよ」と言われまして。そうは言われても「そうですか」ってすぐに会社辞めて大学院に行くなんて事はなかなか出来ないですよ。毎日毎日会社に行く、少なくともその日は食べていけるわけですから、そう簡単には仕事ってのは辞められないわけです。そういうのが2年半近く続きました。でもやっぱりこれじゃ駄目だと思って北海道にもう一回戻って大学院の試験を受けて合格しました。ですから3年近く他の方よりも遅いスタートになるんですけど、大学を出てすぐに会社を見たという事は、私にとってはやっぱり非常に大事なことだったなああと後で研究しながら思いました。だから何でも無駄にはならないんだろうというふうに思っております。

それで、私はそこでドクターコースまで行くつもりで仕事してました。でも、私、博士課程の1年のときに結婚したんですよ。これは非常に問題だったさっき言ったのは、結婚したときにその後の研究する場がどこになるかっていうことはその相手によって違っちゃうわけで、どう選ぶかっていう問題があります。それでそのときはそのまま学位を取るまでそこで一所懸命仕事をして、学位を取れそうだったって分かったときにはやっぱり就職なんて女の人には全然無い時代でした。何処でも行きますって言ったって誰も信じてくれないし、周りにも無いし、どうなるんだろうなあなんて思いながらも出来るだけやっていました。たまたまその時に女性の助手の方がいらしゃったんですけども、その方が主人が転勤されたんで奥さんの方も辞めざるを得ないと言って泣く泣く辞められた後、そこに就かないかと言われました。それは非常に私にとってはラッキーなことなんだけど、その人の苦しそうな状態を見てたもんですから非常に胸が痛みました。

それから教授は私に好きなことをして良いよって言うてくださったんで、少し自分がやってこなかったような事をしたかと思いついて、有機金属錯体というのが非常に面白そうに私には見えただんでやろうと決めました。決めましたんですけども、周りに誰も人も居ないし、何にも知らないから、文献を読んだりいきなり実験したりしてたんなんですけども、全く何にも出来ない日がずーっと続きました。今は非常に大変な時代でこんなこと許されないだろうと思えますけども、来る日も来る日もネガのデータをどんどん積み上げて、全くデータが出ないっていうのが、3年続きました。実験だけしてるんだってまだしもそんな時に長女が産まれてまして、その長女を無認可保育所に預けて18時にお迎えに行かなきゃという生活になりました。今までは夜中まで実験してたのが出来なくなりました。子どもは放っとくと死んじゃいますから育児っていうのは何よりも先に優先順位一番なんですよ。それで本当に学会にも報告できないような時期が3年続きました。この期間、今思い返しても非常に辛いんですけども、もう私は駄目かもしれないというのをそのトイレの片隅で考えたのは何度もありました。そんな事をしながらも一応助手ですから、日ごと仕事はいっぱいあるわけですね。それで学生実習をやったときに、修士コースの学生さんが飛び込んできたんですよ。「先生大変です」って来るから、もう一体何が起きたのかと思って「どうしたの」って聞いたら「90%ですよ、先生」って、私たちがやろうと思ってたことがうまくいって、それが嬉しくて学生さんが飛んできてくれたんですね。苦勞が報いられたっていう本当に嬉しかった瞬間でした。そういう一つの山をクリアすると、後は何とかなるもんで、結果がどんどん出始めました。

それで39歳のときに薬学会の奨励賞をこの仕事で戴きました。こんな凄まじいやり方でも一応研究は出来るんだということを知って、嬉しかったというより、ほっとしたことを覚えていきます。さっきも言いましたけれども、30代は育児のほかに親の介護という問題が出てきます。これはなかなか避けて通れない問題で、私は母が入院したときには子どもを保育所から18時に引き取って、病院に行って、病院でその当時は

お洗濯物は自分で処理しなければならなかったんで、それを持って帰って夜中に洗濯機を回して、次の日に乾かしてまた届けるっていうようなことを何日間も続けたんですけど、本当によく体がもったなあとも思います。さらにその頃に3歳違いで男の子が生まれて。この子はその絶対に保育所には入れないっていうのが分かって、待機児童です。待機児童っていうのは非常に不幸な状態だから、それじゃあ保育所作っちゃえって友達が言い始めたんで、じゃあ私も一緒にやるって言って、無認可保育所を作ってやっとなら合って、下の子はそうやって保育所に入れました。これは30代っていうのは体が丈夫だからやっていける事なんだと思います。その次が子どものことと言いますと学童保育なんですよ。学童保育っていうのは今色々話が出てくると思いますが、札幌市の先駆けだったもんですから非常に内容が悪かったんで、市に交渉に行ったり市議会を傍聴したりとか、そういうことを仕事の合間にやりながらやっていました。本当に教授には今振り返ると申し訳ないことをしたと思っております。

1985年に教授が退官され、その2年後に後任の教授が東大から来られました。私はそのとき44歳で、新しく来た教授は私より5歳若かった。私は助手でしたからなんか非常に大変な立場になっちゃいました。まあ、私、留学する時期を逸したもんですから、この機会に逃げ出して短期の留学をすることにしました。カリフォルニア工科大学の Grubbs 教授、この教授は後にノーベル賞受けられた方ですけども、ここに3ヶ月間居候させてもらいまして、新しく勉強し直しました。子供は中学生と小学生で日本に置いていきました。夫は札幌から30キロくらい離れた大学に通ってたのであてにできないんで、お迎えに行く人を頼んで、弟の夫婦に頼んだりとか、色んな人にちゃんとスケジュール聞いて、頼んで置いてきました。24時間全部が私の時間で最新の実験設備が使えるっていうんで、もう朝は7時に大学に行って夜は11時まで実験をしてるっていう、そういう生活を堪能してきました。それは私にとって非常にラッキーで幸せな時期でした。

※続きは「ダイバーシティ通信第9号」に掲載いたします。

## 木幡室長からの閉会挨拶

お忙しい中、おいでいただきまして、ありがとうございます。色々お話の中で当時は本当に女性の数が少なかったんだなと思いついて。私の母も大学を出てますけども、昭和10年生まれなんですけども、ほとんど女子学生が居ない状態で、しかも建築に行きたかったらしいんですけども、それはそんなの有り得ないという事で断念したと聞いております。でも、私が中学生の頃に建築系の大学を学士入学という形で入り直して建築士を取ったんですよ。中々大変な時代で、そういう先人の方々がいらっしやるので、今皆さんがあるという事だと思います。今でもまだそんなには自由ではないかもしれませんが、当時に較べれば少しは女性も活躍出来る場がどんどん増えてきてるんじゃないかなと、思います。中々聞けないお話が色々あったと思いついて、皆さんそれを励みにして「継続は力なり」ですから、何か無駄なことをやってるんじゃないかなと思っても、どこかで必ず役に立つ、という事を心に留めて皆さん頑張ってくださいと思います。本日はありがとうございます。

2018年度も「キャリア形成のためのランチタイムセミナー」を2回開催予定です。どうぞお楽しみに。

ダイバーシティ通信 第8号 (2018年3月)  
 国立大学法人 室蘭工業大学  
 男女共同参画推進室 女性研究者支援ユニット(UFR)  
 〒050-8585  
 北海道室蘭市水元町27番1号(教育・研究1号館 A331室)  
 TEL: 0143-46-5194 / FAX: 0143-46-5195  
 E-mail: ge\_ufr@www.muroran-it.ac.jp  
 URL: http://www.muroran-it.ac.jp/ge\_ufr/

本誌および大学の男女共同参画等についてのご意見・ご要望をUFRまでぜひお寄せください。

本学の男女共同参画推進を応援して下さる個人・企業からのご寄付を受け付けております。詳しい手続きは下記URLをご覧ください。  
[http://www.muroran-it.ac.jp/ge\\_ufr/kifu.html](http://www.muroran-it.ac.jp/ge_ufr/kifu.html)  
 ぜひご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

男女共同参画推進室  
 Office for Promotion of Gender Equality

**女性研究者**  
**支援ユニット**  
 Unit for Female Researchers